

2018年度

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領	・ ・ 3
専門ゼミナール選択指導について	・ ・ ・ ・ ・ 4
2018年度専門ゼミナールI一覧表	・ ・ ・ ・ ・ 6
2018年度専門ゼミナールI概要	・ ・ ・ ・ ・ 8
専門ゼミナール志望調査票	・ ・ ・ ・ ・ [別配付]

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションを次の要領で開催します。

○日時： 2017（平成29）年9月15日（金）13：00～16：30

○場所： 6401教室

○内容： 国際学部の現2年生に、来年度から履修する専門ゼミナールの内容や選択方法について説明します。

○当日の予定

13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

*スケジュール

志望調査	志望調査票 配布	研究室訪問・ ゼミ見学等期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
期日	9/15(金)	9/15(金)～ 10/20(金)	10/20(金) 16：40 まで	11/15(水) 16：40 まで	12/1(金) 16：40 まで

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2018 年度専門ゼミナール選択指導について—

2017/9/15

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（9 名）、最大定員（最も大きい場合で 18 名）**を定めます。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生諸君は、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) 1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者ゼロの専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) 1 年次の領域選択時のアナウンスに則り、**専門ゼミ選択は所属学科・領域にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**皆さん方が志向する専門領域によっては、他学科所属の先生方のゼミが適している場合が十分に考えられますので、web 情報を十分に精査してください。ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となり、ゼミを指導していく上で目標が達成されない恐れがあるといった理由がある場合に限って、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を web 情報で公開のうえ、教員からオリエンテーションでも説明をします。

2. 専門ゼミ選択指導のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) **各専門ゼミに関する情報を 9 月 8 日（金）より web ベースで公開します。**皆さんはそれを閲覧し、確認しておいてください。
- (2) **専門ゼミオリエンテーションを 9 月 15 日（金）に実施します。【6401 教室予定】OT では全てのゼミ紹介を聴いてください。途中退出は禁止です。OT の最後に「専門ゼミ志望調査票[第 1 志望]」を配布するとともに、教務委員会よりスケジュール、諸注意を伝達します。**

<当日の予定> 午後：13：00～16：30 国際学部全教員ゼミ紹介

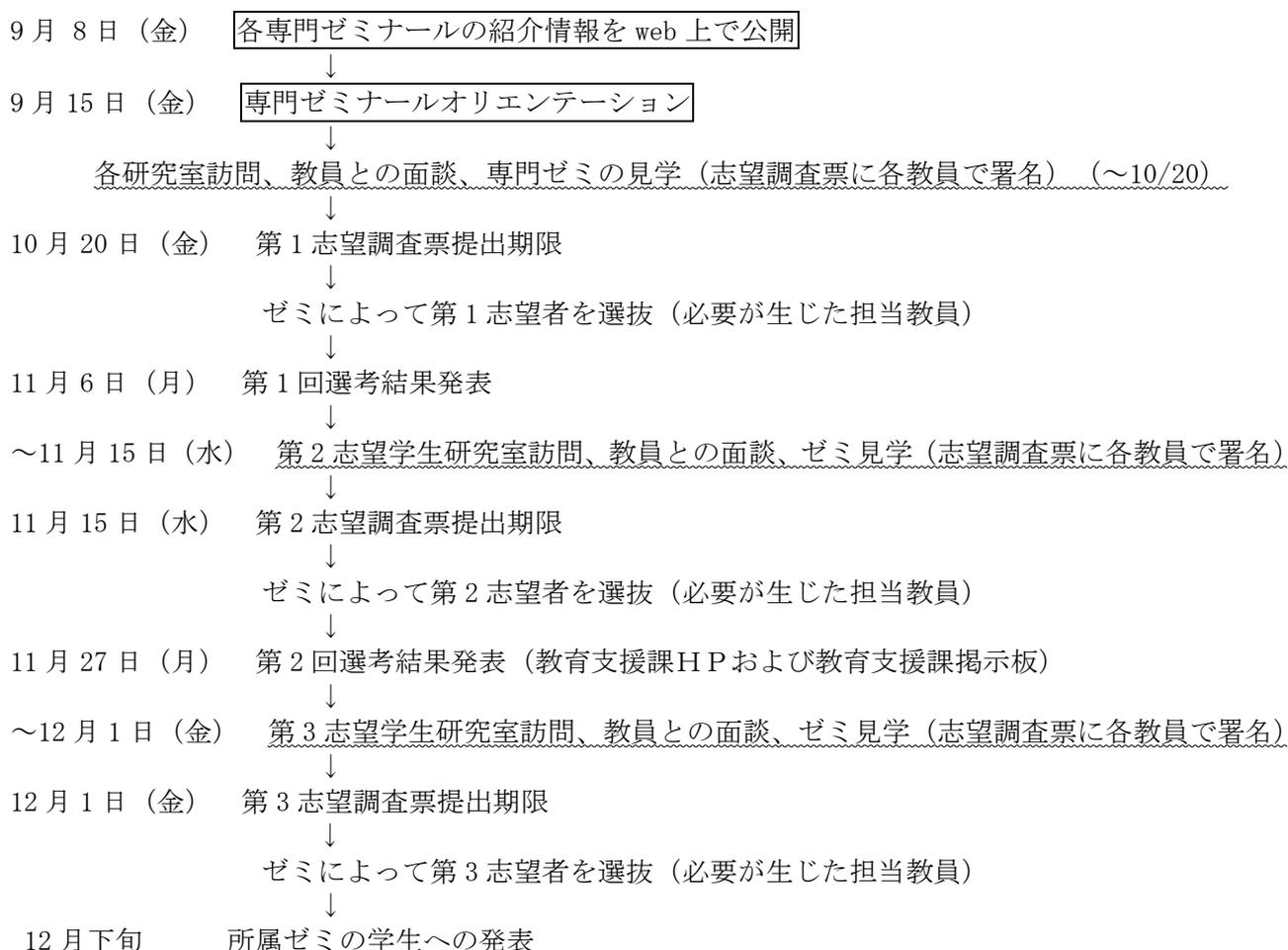
+ゼミ選択の方針、スケジュール説明、志望調査票配布

- (3) 選択指導のための時間を長く取り、複数の研究室訪問、ゼミ見学などが出来るようにスケジュールを設定しています。皆さんは、志望調査票に所属を志望する担当教員からのサインをもらった上で、10 月 20 日（金）までに調査票を教育支援課まで提出してください。
- (4) 学生諸君は (3) の期間中、志望する専門ゼミの見学、研究室の訪問などを積極的に行い、先生方と話し合うなどして情報をさらに集め、志望ゼミを選択するように努めてください。その際、訪問した研究室の教員、所属を志望する教員からのサインをもらってください。**特に第 1 志望ゼミの教員のサインが無い調査票は無効となりますので注意してください。**当該の先生が長期

不在の場合には各学科長（国際理解学科：阿野先生、国際観光学科：鈴木先生）、もしくは教務委員長（高井）まで相談に来てください。

(5) その他、疑問等がある場合には教育支援課窓口、あるいは高井先生まで相談に来てください。

<参考> 専門ゼミ選択指導のスケジュール



専門ゼミナール I 一覧

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入上限	研究室	ページ
1	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	特になし	10名	6213	8
2	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成、コミュニケーション能力育成のための英語指導法	英語教職課程の学生を主な対象とするため、教職科目全般	10名	6309	9
3	生田 祐子	理解	平和を創り、世界と未来へつながるコミュニケーション	「英語コミュニケーション論」、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目	10名	6407	10
4	井上 由佳	観光	「知と文化でおもてなし」:アートや文化で人々と地域をつなぐ	「交流文化論(A,B)」「文化政策論」「博物館教育論	10名	6308	11
5	奥田 孝晴	理解	「国際学の旅」を続ける:「知の運動の守備範囲」は”イチョー並み”に広く、深い。	特になし(シラバス参照)	12名	6406	12
6	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズム・持続可能な観光・観光と地域づくり	「エコツーリズム論(必須)」「観光資源論」「地域プロジェクト演習」	12名	6307	13
7	金井 恵理可	理解	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権・子どもの貧困	法学系の科目1科目以上(ただし担当者は問わない)	10名	6418	14
8	北野 マグダ	理解	Culture in Media	「ESP F」 English writing course English discussion and debate courses	13名	6412	15
9	栗原 剛	観光	観光マーケティングの実践	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」	15名	—	16
10	小島 克巳	観光	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業の役割と交通政策のあり方～	「交通事業論」「エアラインビジネス論」「エアラインサービス論」	12名	6317	17
11	齊藤 功高	理解	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—	「法学入門」「国際理解と法」	9名	6216	18
12	椎野 信雄	観光	<社会>とは何だろうを自分なりに理解してゆくこと	特になし	9名	6314	19
13	塩沢 泰子	理解	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成	「英語とメディア」「英語オーラル・コミュニケーション論」	12名	6315	20
14	菅原 周一	観光	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業(ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業、航空業等の観光業を含む)に関する調査・研究	特になし	14名	6415	21
15	杉山 富士雄	観光	和食と日本・東南アジア農林水産業	「経済学」「経営学」「法学」など社会科学系の科目	9名	6212	22
16	鈴木 正明	観光	企業の経営戦略、ソーシャルビジネス(地域活性化や社会の課題解決を目指すビジネス)	特になし	10名	6312	23
17	高井 典子	観光	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光	「国際観光論」「トラベル・ビジネス論」「旅行法規」	15名	6310	24

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目	受入 上限	研究室	ページ
18	千葉 克裕	理解	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」	英語音声学、英語学概論、英語表現、心理学など	10名	6304	25
19	那須 一貴	観光	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学び、即戦力ビジネス・パーソンを目指す	特になし	14名	6409	26
20	林 薫	理解	「持続可能な世界の実現」	「開発と国際協力」「資源と国際協力」	12名	6306	27
21	黛 陽子	観光	ヘリテージ・インタープリテーション「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」	「インタープリテーション論(理論・応用演習)」「観光と国際協力」	14名	6417	28
22	宮原 辰夫	観光	ゼミ生の関心・興味、そして社会的な問題と関わること	宮原先生の担当科目	9名	6405	29
23	本浜 秀彦	理解	国際日本研究	「現代日本の諸問題」「日本の地理と歴史」など	9名	6311	30
24	山口 一美	観光	観光事業とホスピタリティ・マネジメント	「観光サービス」「国際観光とホスピタリティ」	15名	6316	31
25	山崎 裕子	理解	世界の文化と宗教を哲学する	特になし	10名	6410	32
26	山田 修嗣	理解	「まちづくり」における市民参加と地域社会～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～	特になし	10名	6209	33
27	横川 潤	観光	ホスピタリティとフードのマーケティング(経営者に対する企画プレゼンテーション)	横川先生の担当科目	14名	6413	34
28	渡邊 暁子	理解	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード: 格差、社会的排除、貧困、ファンリテーション	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部の関連科目	10名	6305	35
29	X	観光	宿泊事業論		18名	—	36

※ 説明会当日の説明順序とは関係ありません。

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6213
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、地歴科教育法Ⅰ、公民科教育法Ⅰ、総合演習、4年・3年ゼミ、教育実習(中・高校) [秋学期] 道徳教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、地歴科教育法Ⅱ、公民科教育法Ⅱ、教職実践演習、(越谷校舎の「特別活動論」)
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道徳教育を中心として、教育学全般に関心があります。ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関するものでしたら、すべてOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それら「教育病理」への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。 実践的指導力のある「教師」を目ざして、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	①3年春学期は、「幼稚園児」等との交流学习の企画・準備・実践を行います。 ②3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。 ③4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④卒論執筆と同時に、幼稚園児や特別支援学級の生徒との交流会、茅ヶ崎市内の小・中学生への学習支援ボランティア、1年教職課程学生に「楽校」実践、柳島卒論検討合宿、愛の湘南PK、カンボジア・スタディツアーなどを行います。 「幼稚園児から教育長まで」ふれあって、教師としての実践的指導力を養います。
留意事項 (Requirement など)	以下の2つの活動に必ず参加していただきます。①茅ヶ崎市内中学校サマースクール支援②カンボジア・スタディツアー
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
募集人数の上限	10名まで。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日します。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。 赤坂ゼミでは、「教育」という大きなテーマのもとに、一人ひとりが自ら考え、理想の教育の在り方を追求し、楽しく議論しています。 赤坂先生が目指す「響育・共育・協育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。夏には、カンボジアの子どもたちに出会うスタディツアーもあります。人と人とのふれあいを大切にし、実際に「幼稚園児から教育長まで」ふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。 特に将来、絶対教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。(4年)

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6309
出講日	火曜日・水曜日・木曜日 (月曜日も出校の場合あり)
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】 英語科教育法Ⅲ、英語教育研究、教育実習 A、大学院科目 【秋学期】 英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、英語音声学、 教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	原則として火・水・木は 1 日中大学にいますので、いつでも歓迎です。空き時間は研究室前の予定表で確認してください。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を対象としたゼミです。学校教育における英語指導のあり方について、小学校、中学校、高等学校での英語の授業を大きな枠組みの中で捉え、それぞれの学習段階に応じた授業について考えます。日本の英語教育は、2020 年を目指して本格的な改革の真っ只中にあります。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから現場に輩出したいと思っています。主役はあくまでもゼミ生です。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作っていきます。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、全員でディスカッションをします ・イベント (中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表、海外の大学のゼミとの合同ゼミなど) に向けての準備をします ・英語教育現場 (学校や出版社) の訪問やゼミ合宿などを随時実施します ・4 年生は卒業論文・卒業制作の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習支援ボランティア、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して積極的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、教職科目全般。
募集人数の上限	学校訪問等の実施をふまえて、10 名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望者全員と面接を行います。この面接に、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。研究室訪問では担当教員に加え、ゼミの 3・4 年生・大学院生ともどどん話をしてください。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。ゼミのメンバー決定後には、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶよい授業の作り方」「生徒の学力差に応じた英語指導法」「英語の楽しさを伝える授業作りのポイント」など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	阿野ゼミでは互いに切磋琢磨しながら英語教育の研究を行っています。学外では学習支援ボランティアや他大学との合同ゼミなど、とても充実した活動を行うことができます。阿野先生の指導の下、研究を進められることは教員になっても絶対に貴重な財産として誇れます！ここまで雰囲気の良いゼミもなかなかありません！ぜひ阿野ファミリーに加わって一緒に楽しく活動をしていきましょう！ (4 年ゼミ長 石井達也) 私たちは学校にボランティアに行ったり、勉強会に参加したり様々な活動を行っています。最も大きなイベントは国際学会 (今年は韓国でした) での英語による発表です。みんなで 1 つのテーマを決め、何か月もかけてそのテーマの調査・研究を行いました。みんなで協力して大変なことに挑戦するからこそ手に入れられるものはたくさんあります。阿野ゼミに入って一緒に頑張りましょう！ (3 年ゼミ長 青木麻由美)

担当者名	生 田 祐 子 (いくたゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@shonan.bunkyo.ac.jp (FB/LINE での問い合わせも可)
研究室	6 4 0 7 (6号館4階)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 時限と 5 時限 (4 時限は 3211 教室で行っています。) ゼミ見学予定日： 9 月 29 日・10 月 6 日・10 月 13 日 (予約不要)
担当科目	英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 EIC201 応用演習 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	火曜日・水曜日・金曜日 12:40-13:15 *他の時間はメールで予約ください。 *研究室ドアに研究室訪問とゼミ見学ができる詳細日時を掲示します。
ゼミのテーマ	「平和を創り、世界と未来へつながるコミュニケーション」
ゼミの内容・ メッセージ	このゼミでは、グローバル化社会と言語の諸相を学びつつ、世界を舞台に仕事ができるレベルの 英語コミュニケーション力 を養います。 世界は多言語社会が標準、価値観や文化も多様です。次代を担うみなさんには、世界と関わり、異なる言葉を話す人たちと共に生きていく「グローバルな対話力」が必要です。模擬国連活動を通して、どうすれば世界の人々と相互理解を深めることができるかを議論しつつ、実践的に高度な英語を使う環境を提供します。国際理解と平和が根幹を流れるテーマです。 <u>おすすめ対象</u> ：国際理解教育の視点から英語教育を担う教師を目指す、グローバル教育や日本語教育に関心がある、海外の企業で働きたい、通訳や映画翻訳を仕事にしたい、国連や JICA のような国際機関にチャレンジしたい思いがある学生。生田ゼミは、「まじめに+本気で」世界とつながる卒業生を送り出しています。大学院進学、長期留学、インターン留学、奨学金による留学を願っている人をいつも応援しています！ 英語はゼミ内言語=EMI(English as a Medium of Instruction)です。
ゼミの進め方	3 年生：英語脳を鍛え、英語で呼吸する！ 1. 英語による模擬国連 (JUEMUN) 活動 2018 年度は京都外国語大学(春)、筑波大学またはアジア(秋)を予定。 →英語の資料を読み、語彙を増やし思考力を鍛えます。 2. 国際機関や教育機関でのインターン、日本語教師・通訳ボランティア、英語教育、国際理解教育の学会参加等を奨励します。 3. 英検準 1 級/TOEIC800 点を目指す課題。(英語教職の学生は必須) 4 年生 ：社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野の卒論研究を指導します。日本語で執筆、発表は英語が目標です。 *ゼミ内容は、学生の関心/英語力等の諸事情により変更することがあります。
留意事項 (Requirement)	1. 3 年次 (5 セメスター) で「社会言語学」「通訳入門」「平和学」を履修。 2. 9 月中旬の合宿 (卒論中間発表・3 年生課題発表) へ参加すること。 British Hills (福島県) または山中湖のカナダ人ペンションで行います。
ゼミ履修に望ましい科目	英語コミュニケーション論、英語教職、国際協力、国際理解の関連科目
募集人数の上限	10 名。卒論等の個人指導の時間を考慮し、少人数ゼミとしています。
選抜の必要がある時	日本語の志望動機エッセーに関して、英語による面接を行います。
ゼミ受入決定者へ	来春の NY 国連研修は、模擬国連参加の大切な準備になりますので、できる限り参加ください。参加しない人へは課題を用意します。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』 “English as Lingua Franca to Bridge Asian Countries: An English Experience in Cambodia” 『アジアを繋ぐリンガフランカとしての英語-カンボジアでの英語体験-』 “Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』 *研究室で過去の卒論をすべて閲覧できます。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	英語が大好きで、グローバル志向の強い学生が集まっています。 以下の <u>昼休みに</u> に学生によるゼミ説明会を開きますので、知りたいことを遠慮なくおたずねください！ 9 月 26 日 27 日 29 日 @生田研究室(6407)

担当者名	井上 由佳(いのうえ ゆか)
e-mail アドレス	yukai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6308
出講日	月・水・木曜日
ゼミの開講時間	木曜日 4 限・5 限
担当科目	<春>国際学入門、文化政策論、博物館教育論、新入生ゼミナール、専門ゼミナール他 <秋>交流文化論 A, 博物館実習、専門ゼミナール、大学院科目他
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木曜日の昼休みなど授業時間以外 (事前にメールをください。)
ゼミのテーマ	「知と文化でおもてなし」：アートや文化で人々と地域をつなぐ
ゼミの内容・メッセージ	このゼミでは、身近にある文化施設をどのような場にしていけば、そこを訪れる人々は心を開き、新しい文化を吸収し、さらに生み出していくのか、地域に目を向け、市民としての意識を高めていけるのかを考えていきます。 具体的には、博物館や美術館といったミュージアム、水族館、動物園、図書館、音楽ホールといった文化施設に注目し、文化や自然科学の知見を発信しつつ、人々の声を受けとめてさらに進化する、双方向のコミュニケーションを実現する「知と文化で人々をもてなす場づくり」について学び、実践していきます。これまでに茅ヶ崎市美術館、海岸青少年会館等の施設でワークショップ等をゼミ生が主体的に企画し、運営してきました。ゼミ企画のイベント、フィールドワーク、ゼミ合宿には原則として必修参加です。
ゼミの進め方	3 年生の間に、ミュージアムに関する基礎的な文献を輪読し、レジュメの作成・発表・ディスカッションをします。また各自のコミュニケーション・スキルを磨くトレーニングを同時に進めます。また合宿を含めたフィールドワークでは、ミュージアムを仲間と楽しみながら「問題意識を持って物事を見る」練習をし、「知と文化で人々をもてなすことの意味」を考えます。随時、学外でのワークショップの企画と運営をします。4 年生は卒業研究とワークショップの企画に取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	学外でも活動するため、豊かな発想力、自ら発言し動く積極性、協調性と責任感を持って行動すること。アルバイト等よりもゼミ活動を優先にできること。
ゼミ履修に望ましい科目	交流文化論(A,B)、文化政策論、博物館教育論
募集人数の上限	10 名(ワークショップの企画運営の際に大人数は難しいため)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容から判断し、必要に応じて面接を実施予定。
ゼミ受入決定者への指示	3 年生になる前の春休みに新 3・4 年生合同ゼミ合宿を開催します。詳細は追ってメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	ミュージアムと観光、アートフェスティバルの運営、学校や地域とミュージアムの連携など
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	★学外で行うワークショップはゼミ生主体で企画するので、コミュニケーションの場づくりに1から関わることができます。フィールドワークでは様々なミュージアム等を訪れ、職員のお話を聞いたり、ゼミ生で意見を共有したりするので、審美眼を高め、多様なものに寛容になったりと自分自身の成長につながりました。ミュージアムが好きな人やワークショップに興味がある人はぜひゼミ見学に来てください！★就活で「美術館等について勉強しています」と書くと、直接ミュージアムに関係のない業界でも興味をもってもらうことが多かったです。ワークショップ等の企画運営を通して学べることもたくさんあります。フィールドワークはとっても楽しいですよ！

担当者名	奥田 孝晴 (おくだ たかはる)
e-mail アドレス	okuda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6406
出講日	月、火、水、木
ゼミの開講時間	木4、木5
担当科目	[春学期] 国際学入門、近現代史基礎、アジア太平洋経済論、他大学院講座 [秋学期] 開発経済論、国際理解と経済、近現代史基礎、国際学研究C、他大学院講座
研究室を訪問できる時間帯	原則として月～木(しばしば金も)は出校している。昼休み、専門ゼミ開講時間、研究室前にある予定表空き時間に訪ねてください。
ゼミのテーマ	「国際学の旅」を続ける：「知の運動の守備範囲」は”イチロー並み”に広く、深い。
ゼミの内容・メッセージ	今、私がゼミナール等で取り組んでいる「国際学」の研究課題は以下のようなものです。①平和学の視点から、「核と市民社会」の問題を考えます。原子爆弾、原子力発電所などに象徴される「核」の問題、それが地球市民社会にあたる様々な(たぶんマイナスの)影響。また、世界や日本の安全保障にどのように絡んでいるかも考えています。 ②グローバル化・スタディーズの視点から国内外の「権力の非対称構造」としての中核一周辺差別問題を考えます。先進諸国と第三世界の関係、トウキョウと地方(たとえばトウホクやオキナワ)との関係はこの構造の「相似形」に過ぎません。「3・11」以降、ますます可視化されるようになった、この悪しき構造の研究を行います。 ③東アジア諸国・諸民族との共生をいかに図るかという課題。「東アジア共同体への道」を考えます。現在の東アジア諸国の間には「歴史認識の相違」、「領土問題」など様々な懸案が残されており、ますます進む経済的な相互依存とは真逆の敵愾心が強まっています。問題の多くは東アジアの歴史(特に近現代史)への無知や無理解に起因するところが多いのではないのでしょうか。いっそのこと、私たちが「東アジア市民による東アジア共同体への道=未来志向の近現代史」を書いてみるという手はどうでしょう。また、それを国際社会に発信するために、英語翻訳にもチャレンジしてみましょう。 ④「国際学の旅」をしましょう。「事件は会議室ではなく、現場で起きている」(どこかで聞いたセリフだが…)。国際学を学ぶ現場は世界・日本にたくさんあると思います。研究室と現場との往復運動を通して、「私たちの国際学」を作っていきましょう。
ゼミの進め方	基本、皆との話し合いで決めたいと思いますが、3年次は基本的文献の輪読、発表に基づく意見交換を中心に、4年次は各自が取り組むべき知的課題を見出し卒業論文を執筆します。また 適宜、「国際学の現場」を訪ねる旅を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミは「知の共同体」です。学生・教授の区別なく、共に「学び、教え・教えられる」よき仲間作りを目指しましょう。そうした志向を持つ人、それが最大・唯一の必要条件です。(まずは、お話をしましょうか…)
ゼミ履修に望ましい科目	特にはないが、これまでの国際学部での学習をふまえて、上にあげた問題群への理解、知的関心に触れる科目の履修が望ましい。また、ゼミで行う課外研究活動や「国際学の現場」を訪ねる旅に積極的に参加して欲しい。
募集人数の上限	学外での研修活動を行うことなどをふまえて、最大12名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	所属学科に関係なく希望者全員との面接にて選抜します。(たぶん、選抜の必要もないと思いますが。)選考にあたっては、上記のような問題群への知的関心・真摯な勉学姿勢を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行う。(期日は別途連絡します。)

担当者名	海津ゆりえ
e-mail アドレス	kaizu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6307 (6号館3階突き当り)
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木4・5
担当科目	【春】国際学入門、地域プロジェクト演習Ⅰ、エコツーリズム論、サステナブル・ツーリズム特論(大学院) 【秋】観光資源論、地域プロジェクト演習Ⅱ、地域のサステナブル・デザイン論、専門インターンシップ、地域計画特論(大学院) 【ゼミ】新入生ゼミナール、基礎ゼミナール、専門ゼミナールⅠ～Ⅳ、
研究室を訪問できる時間帯	出講日の昼休み。他はメールにてご相談ください。
ゼミのテーマ	エコツーリズム・持続可能な観光・観光と地域づくり
ゼミの内容・メッセージ	エコツーリズムは、20世紀後半の観光が生んだ弊害を越えようと生み出されたコンセプトでした。環境保護・地域振興・観光推進のバランスをとり、相互に補完しあう新しい観光を創造しようという理想へのチャレンジでした。本ゼミは、この挑戦を形にする デザイナーやプランナー の育成を目指しています。そのために、文献講読とディスカッションによる 理論研究 、国内外のエコツーリズムの現場を訪ねる 事例研究 、様々なプロジェクトやエコツアーの創造を通じた 実践研究 、それらの経験を経て自らの研究として取り組む 自主研究 の4つの手法で学びます。旅すること、地域づくり、自然保護、地域の人々との交流等に関心があり、企画力や提案力を身につけたい学生を歓迎します。
ゼミの進め方	専門ゼミⅠ：エコツーリズムへの理解、宝探しへの理解を深める (文献講読、ディスカッション、春合宿、夏合宿) 専門ゼミⅡ：演習地域を題材に「宝探し」「エコツアー企画・実施」(茅ヶ崎学) (地域へのプレゼンテーション、エコツアーの企画・広報・実施) 専門ゼミⅢ&Ⅳ：卒業研究と論文執筆(各自1編。フィールド調査必須) ■プレゼンテーション 7月：小出コミュニティセンター 12月：全国エコツーリズム学生シンポジウム 他 ■各種プロジェクト(奄美群島、岩手、福島、神奈川(複数地域)他)
留意事項 (Requirement など)	・フィールドワークや合宿を行うため費用がかかります。(10万円ぐらい) ・合宿は春休み、夏休み(奄美群島を予定)、秋学期中に行います。全員参加。 ・有志参加のプロジェクト群が多数あります。 ・3年次の個人課題として「一人旅」を課しています。年度末に報告会有り。
ゼミ履修に望ましい科目	エコツーリズム論(必須)、観光資源論、地域プロジェクト演習
募集人数の上限	12人
選抜方法	レポートを課し、面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	全員決定後ガイダンス・ゼミを開催。3年ゼミへの参加、春合宿の実施。
代表的な卒業論文のテーマ	エコツーリズム、震災復興、地域活性化、環境保全、地域ブランディング、国立公園等。研究室に見に来てください。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	地域を元気にしたいなら海津ゼミ! / 地域に密着した多種多様なプロジェクトがあり、やってみたいという気持ちがあれば何でも取り組むことができます。 / 自然が好きな人、日本を知りたい人、積極的にゼミ活動をしたい人におすすめです。合宿はもちろん、インターンや希望参加のプロジェクトなど多くの学ぶ場があります。とても楽しいのでぜひ話を聴きにきてください! / 男女の分け隔てなく様々なプロジェクトにチャレンジする事ができます。 / インドア派で引きこもりでしたが、今では外にいることが好きな、アウトドア派になりました! 海津ゼミに入ると、視野が広がり、世界観が広がります! 私は先生のプロジェクトの元、沢山の良い体験、出会いがありました! エコツーリズム、震災と観光の関係や、地域活性化などに興味がある方には最高のゼミです!

担当者名	金井 恵里可 (かない えりか)
e-mail アドレス	kanai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6418
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4, 5 時限
担当科目	日本国憲法(第1 セメスター)、法学(第2, 第3 セメスター)、憲法(第3 セメスター)、法と行政A(第4 セメスター)、法と行政B(第5 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	水曜 2 限～昼休み、金曜昼休み～3 限
ゼミのテーマ	憲法・行政法・地方自治論・在日外国人の人権・子どもの貧困
ゼミの内容・メッセージ	<p>憲法学・行政法学の基礎知識をもとに、社会問題について調べ、ディスカッションします。</p> <p>憲法は、どこの国でも社会の基本となる法です。一方、行政法は皆さんにとって馴染みが薄いかもかもしれませんが、現代社会では「犬も歩けば行政法に当たる」という言葉があるほど、行政法が私たちの生活に浸透しています。皆さんが社会的関心を抱いている事柄は、きっとどこかで憲法と行政法に繋がっています</p>
ゼミの進め方	<p>1 学年のゼミを二つのグループに分けます。</p> <p>第1 グループは、「憲法・行政法を使う仕事に就くこと」を目標にする人たちのグループです。公務員や行政書士を目指す学生が対象です。自治体政策や入管・難民事件のケーススタディを中心に進めます。</p> <p>第2 グループは、「特定の社会問題に関心があり、その問題を憲法・行政法の観点から考察すること」を目標にする人たちのグループです。個々人の関心のある領域や関心の度合いに応じて進め方を変えます。</p>
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループが並行する関係で、開講時間が前後する場合があります。 ・3 年生の夏休みから秋学期にかけて、インターンシップ・学外研修に参加してください。 ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。 ・藤沢駅近くの子ども食堂のお手伝いをしています。各自の都合に合わせて参加してください。めやすは月に2回程度です。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (ただし担当者は問わない。)
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「在留外国人の社会的差別」「ヘイトスピーチと表現の自由」「難民認定制度の問題点」／「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「待機児童対策の効果と課題」「学校事故の過失責任」／「交通ルールと社会秩序」「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」／「自治体における産・公・民の三者協働」「ナショナリズムと国民国家」「情報化社会におけるプライバシー」
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	<p>*第1 グループ*</p> <p>地方公務員の志望者が多いので、憲法と行政法の重要判例を読み解きながら、地方分権や自治体の政策について学んでいます。最初のうちは課題をこなすのが大変でしたが、実力がつくると自分の問題意識が持てるため、面白くなってきました。先生は厳しくて優しいです。</p> <p>*第2 グループ*</p> <p>ものすごく自由なディスカッションを通じて、「自分で考える力」が鍛えられます。また、身の回りのニュースにも自然と関心を持てるようになり、それに対する物の見方や考え方も深まると思います。少しでも興味がある方は是非一度、金井ゼミに足を運んでみて下さい！</p>

担当者名	北野マグダ
e-mail アドレス	magda@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6412
出講日	月・火・水・金
ゼミの開講時間	金4（3年生）、金5（4年生）
担当科目	英語表現A、英語表現B、ESP F、翻訳入門、EIC201
研究室を訪問できる時間帯	月・水の昼休み、火3時限 Please read this page before you come, and prepare specific questions.
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. Presentations, discussions, written work, and final theses will be in English. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is “Culture in Media,” and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, I will present a new topic followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis in English. At least a level 3 English class membership is recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	Taking an English writing course will aid in writing your reports. I especially recommend my ESP F class. English discussion and debate courses will also help in participating in classroom discussions.
募集人数の上限	13
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	Interview (in English)
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by participating in the Language Garden lunch chats and reading English books and Internet sites for pleasure.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, Fantasy School Life in Japan and America
所属ゼミ生（先輩）からの 一言	

担当者名	栗原 剛 (くりはら たけし)
e-mail アドレス	tak.kurihara@tsc.u-tokai.ac.jp
研究室	
出講日	木曜
ゼミの開講時間	木曜 4 限・5 限
担当科目	
研究室を訪問できる時間帯	昼休みの時間帯に数回、改めて個別のゼミ紹介を予定しています。
ゼミのテーマ	観光マーケティングの実践
ゼミの内容・メッセージ	<p>マーケティングは「顧客」を創造するために、そのニーズを発見し、価値を提供します。観光分野においてもマーケティングは重要です。本ゼミでは、「観光マーケティングの実践」をテーマに、調査を通じたデータ分析に基づき観光客のニーズを発見し、戦略に役立てることを考えます。まず、観光関連統計やアンケート調査等のデータ分析手法を学びます。その後、それらの手法を実際に各自の研究に活用することで、マーケティングの「実践」に取り組みます。調査対象は国際観光から地域づくり、消費者行動などさまざまです。分析では、Excel® (以下、エクセル) を使用する予定です。</p> <p>もっとも大切なことは、「小さなことでも疑問や不満を持ち、それを追究したい」という姿勢です。そのため、好奇心旺盛な学生を歓迎します。</p>
ゼミの進め方	<p>【3 年次】春学期は、マーケティングの基礎理論とその活用について、グループワークを通じて学びます。秋学期は、卒業論文を念頭に、各自の関心を研究テーマにし、マーケティングの手法により研究します。なお、春・秋学期ともに、研究内容をゼミで発表し、議論をします。春休みの課題は、卒業論文の計画書を作成することです。</p> <p>【4 年次】春学期は、卒論の計画書に基づき、卒論の「リサーチ・クエスチョン」を決定します。夏休み以降は、卒業論文の執筆を指導します。</p> <p>※ゼミ合宿、懇親会の開催はゼミ生に一任します。</p>
留意事項 (Requirement など)	エクセルを使用する予定のため、エクセルに関心のある学生にお勧めします。
ゼミ履修に望ましい科目	「観光マーケティング論」、「消費者行動論」を受講することを勧めます。
募集人数の上限	15 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接を予定。
ゼミ受入決定者への指示	事前オリエンテーション等を実施する場合は、別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	<p>栗原ゼミは、明るく和やかな雰囲気で行々の活動に取り組んでいます。このゼミを一言で表すと、「自由」です。私たち学生の調査内容が活動に反映されることを意味しています。ゼミの時間外に意見を出し合うことも多々ありますが、自分たちで課題を設定して取り組むので、将来必要な自主性や課題発見力が身に付きます。また、箱根町の方々にプレゼンテーションをしたり、先生による Excel 講座や東海大学との合同ゼミもあるので、プレゼンテーション力を身につけたい！他大生との交流もしてみたい！という人はぜひ来てください。</p>

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6317
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	春学期：エアラインビジネス論、ホスピタリティ人材開発ほか 秋学期：交通事業論、エアラインサービス論、テーマパーク事業論ほか
研究室を訪問できる時間帯	原則、出講日の月・水・木の空き時間 (ただし火・金でも訪問可の場合あり) ※詳細は研究室前に掲示するので確認してください。
ゼミのテーマ	交通事業・交通政策研究 ～自由化時代における交通事業の役割と交通政策のあり方～
ゼミの内容・メッセージ	私たちは毎日の通勤通学で電車やバスを利用し、休日には航空、新幹線、高速道路などを利用して旅行に出かけます。小島ゼミではこのような航空、鉄道、自動車交通 (バス・タクシーなど) などの交通機関や、空港・道路といった交通インフラなどを研究対象としています。各交通機関の個別の問題から、交通と観光振興、交通と環境、地方交通の維持といった横断的な問題まで、交通に関わる幅広いテーマを取り上げ議論します。
ゼミの進め方	[3 年次] 春学期では交通政策に関する文献を輪読し、交通事業や交通政策に関する基本的な知識を習得します。夏休みにはゼミ旅行を実施し、交通事業者への訪問などを通して知識を深めます。秋学期ではそれらの知識を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。こうした勉強を通して、3 年次終了時までに各自卒業論文のテーマを決定することを目標とします。 [4 年次] 春学期では卒業論文の作成に向けて、研究計画書の作成や中間報告を行います。秋学期では卒業論文の作成指導を行います。
留意事項 (Requirement など)	3 年の夏休みに実施するゼミ旅行では一定の費用 (最低でも 6~7 万円程度) がかかります。また、これ以外にも空港見学等で交通費が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	交通事業論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論の履修を強く勧めます。
募集人数の上限	12 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望調査票の内容にもとづいて面接を実施します。ゼミで学びたい内容やゼミへの貢献の可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「首都圏の鉄道における交通手段と選択要因」 「日本の LCC の将来性について」 「JAL123 便墜落事故が残したもの」 「大手私鉄の経営と将来性」 「日本の自転車交通のあり方について」など
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	・小島ゼミは交通業界の表面だけではなく裏側も学ぶため、より理解が深まります。そして、小島先生は授業では見せないお茶目な面を見せてくれるので私達も楽しくゼミを行なっています (笑)。メリハリがあるゼミです！ ・小島ゼミでは、航空関係だけを学ぶと思われがちですが、一人ひとりがさまざまな交通業界に興味を持ち、交通についての知識を深く学ぶことができるゼミです。

担当者名	齊藤 功高 (さいとう よしたか)
e-mail アドレス	saito@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6216
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限 (3 年ゼミ) 金曜日 5 限 (4 年ゼミ)
担当科目	[春学期] 新入生ゼミナール、国際人権法、国際理解と法、特殊講義 (人権法)、 専門ゼミ I (3 年)、専門ゼミ III (4 年) [秋学期] 法学入門、国際機構論、国際環境法、基礎演習、専門ゼミ II (3 年)、 専門ゼミ IV (4 年)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日昼休み・4 限 5 限、水曜日 2 限・昼休み、金曜日昼休み・4 限・5 限
ゼミのテーマ	国際法の研究—国際社会を国際法の視点から読み解く—
ゼミの内容・メッセージ	国際法は国際社会の法として国際法主体 (国家、国際組織、NGO、個人、多国籍企業) が守るべき法規範である。国際法主体はおおよそ国際法を遵守しているが、時には国際法主体同士の合意形成ができないため、軋轢が生じることがある。また、現実の国際社会は、急速に変化しているので、よく言えば、発展している、現状の国際法では解決できない問題が発生する。 そこで、国際法の視点から現状の国際社会の事象を分析し、そこに潜む問題点をえぐり出し、その問題解決にはどのような方法があるのか、また、新しい国際社会の動きに対応する国際法はどうあるべきか等を研究する。 具体的な各自のテーマはゼミ生と話し合いの上、決定する。
ゼミの進め方	① 3 年次春学期は国際法全般に関するプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。春学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ② 3 年次秋学期は個別のテーマに沿ったプレゼンを行い、その内容についてディベートを行う。秋学期の学習のまとめとして最後にレポートを作成する。 ③ 4 年次春学期は、卒論作成に向けて、テーマ及び内容を確定する。概略をレポートとしてまとめる。 ④ 4 年次秋学期は、夏休みを通して書き上げてきた卒論草稿を精緻な卒論に仕上げる。
留意事項 (Requirement など)	①ゼミ合宿を行う (希望者)、②海外研修を行う (希望者)、③4年卒業旅行を行う (希望者)、④その他、学会出席 (希望者)
ゼミ履修に望ましい科目	法学入門、国際理解と法
募集人数の上限	専門性を考慮して 9 名を募集上限とする。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	原則として面接を行う。その際の順位は以下の通り。 ①第 1 順位として国際協力領域所属の学生。 ②第 2 順位として理解学科の他の領域の学生。 ③第 3 順位として観光学科の学生。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れが決定後、1 2 月あるいは 1 月に 3 年生・4 年生と顔合わせ会を行う。その際、4 月までの指示を行う。
代表的な卒業論文のテーマ	人権 (女性、子ども、難民など) に関するテーマ
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	[3 年生から] 国際法はすべてのことに関わっているので非常に役立ちます。話しやすい雰囲気の中、活発に議論しています。先生もおもしろいですよ。[4 年生から] 飲み会では、先生や 3 年生、時には先輩と交流する機会があり、楽しいですよ。合宿も面白いですよ。きちんと勉強しますが、みんなと一緒に行動することで、一層親密感が生まれます。先生はよくダジャレを言うので、雰囲気は和みます。とにかく、メリハリのあるゼミです。

担当者名	椎野 信雄 (しいの のぶお)
e-mail アドレス	shiino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6314
出講日	月・水・木・金
ゼミの開講時間	金曜日 4限目(5限目)
担当科目	[春学期] 国際学入門(1)、交流文化論B(3)、現代思想(5)、ジェンダーと教育論(大学院) [秋学期] 国際学研究B(4)、ジェンダーと国際社会(6)、市民社会・ガバナンス特論(大学院)
研究室を訪問できる時間帯	メールでアポイントメント(訪問予約)をとってください。 研究室@6314のドアのボードを見てください。オフィスアワー
ゼミのテーマ	<社会>とは何だろう。社会とは、高校までは教科の一つで、地理・歴史・公民系の教科・科目のことだと理解してきただろう。大学に入ると、社会とは、それだけではなく、大学を卒業すると、「社会人」となり、「社会に出る」ようになるという理解し始めた人もいよう。就活関係では社会人基礎力とか、社会常識とかが重要だと言われているようでもある。かくして<社会>とはいろいろな意味があるらしいが、<社会>とは何かを理解しないまま、社会に出るのが怖い、不安だと思って、社会人になってしまう人も多い。<社会>とは何だろうを自分なりに理解してゆくことがゼミの学びのテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	<社会>とは何だろう、を社会学のいろいろな視点から理解していきます。社会学の視点とは、<社会>を「近代・Society・世間・会社・企業・経済・産業・労働・生活・家族・文化・政治・国家・グローバル・地域・学校・教育・市民・個人・国際・世界・平和・紛争・日本・福祉・観光・ミュージアム・性別・人間・言語・宗教・自然・科学・情報・メディア・映像・集団・歴史・法律」などと関連づけて理解する視点のことです。この全てを網羅的に覚えるのではなく、自分が興味・関心を持っている現象について、「正解」を求めのではなく、自分なりの理解を深めていくことが、ゼミの目標です。
ゼミの進め方	①ゼミの進め方は、私の他の授業のやり方と基本的に同じです。毎回の読書予習課題の提出があります。社会学の視点から<社会>とは何かを理解することを基本目標とします。それを通して、あなたにとっての社会の過去・現在・未来について、考える力を養い、日常生活において常に考える力を使えるようになることが到達目標です。他のゼミ生のコメントについて意見交換ができ、いろいろな社会学の視点について質疑応答ができ、ディスカッションを通して、他者の意見の理解と自己の意見の表現の力を深め、自分の社会観をアンラーン(考え直すこと)し、<社会>について問いをたくさん持つようになります。<社会>の中のあなたが変わるのです。 ②現代社会のあり方を理解するための課題(研究テーマ)を自己決定し、4年次に卒業論文にまとめます。「大学」的な言語コミュニケーション能力(読書聞話・思考・発表・ディスカッション)を習得し、卒論を仕上げます。 ③現代社会を理解するために映像での学び・社会見学体験なども適宜行います。
留意事項 (Requirement など)	時折、「映画上映」の開催実施に積極的に参加してもらうことがあります。 椎野ゼミナール・サイト(http://www.bunkyo-shiino.jp/) をご覧下さい。
ゼミ履修に望ましい科目	履修科目において「覚えること」ではなく、「知る」「気づく」「考える」「アンラーン」することの大切さ・面白さを理解したことがある人が望ましい。
募集人数の上限	9人
選抜必要時の方法	面接にて選抜します。ゼミの内容の共感度を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	決定時から3月までの課題についてオリエンテーション(学習指導)をします。
代表的な卒業論文のテーマ	戦後日本社会の「あるべき男性像/女性像」とDV家庭の出現の係り
所属ゼミ生(先輩)からの一言	本気で学びたい人を大歓迎するゼミです！自分の考えを深め、様々な知識を知るところでもあります。自分の意見と知識をみんなと交換し、メンバーの絆を深めます。社会のあらゆる出来事の裏側や背景をはっと気づかせてくれるようなゼミだとおもいます！自分にとっての「当たり前」を疑い、皆で話合います。

担当者名	塩沢 泰子 (しおざわ やすこ)
e-mail アドレス	yasuko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6315
出講日	(月)・火・水・木
ゼミの開講時間	3年は木曜4限。4年は木曜5限
担当科目(セメスター)	異文化理解演習(2)、英語とメディア(6)、英語オーラル・コミュニケーション論(4)など
研究室を訪問できる時間帯	火、水、木の昼休み、同日5限後
ゼミのテーマ	演劇的手法を活用した総合コミュニケーション力(特に英語)養成
ゼミの内容・メッセージ	英語による様々なドラマ手法(即興、スピーチ、朗読、創作劇など)に取り組み、表現力、洞察力、共感力、創造力を高めます。小学生対象の英語活動にも関わり、リーダーシップと人間関係構築力を磨きます。最も重要な活動は大学祭と12月のフェスティバル(全国各地の大学が参加)での創作劇発表。ITを駆使したコメディが塩沢ゼミの伝統。海外を含めた他大学の学生との合同ドラマ合宿やゼミも実施。卒業研究は論文だけでなく、翻訳、スピーチ、英語劇など多岐にわたります。オープン・キャンパスにも積極参加。海外の大学(台湾・タイ)との交流も実施(有志)し、異文化理解に努めます。
ゼミの進め方	3年春学期はドラマの基礎(理論と実践)と、学童保育での英語教育の計画と実践に重点を置きます。秋学期は大学祭ならびにフェスティバルの準備・練習が中心。4年春学期はスピーチや朗読の理論と実践。秋学期は即興の交渉劇の実践に加え、卒業研究を進めます。3年次から進路に関するガイダンスやゼミ生同士の情報交換、自己啓発の文献紹介も行います。学期に1回程度、学外の専門家を招き、ワークショップを実施。
留意事項 (Requirement など)	聳塔祭ならびに12月の大会で、3年ゼミ生全員で英語パフォーマンスを発表するのが最重要課題。そのための練習や合宿などもゼミ生全体で話し合った上で合意を取り、参加していただきます。国内外の大学生との英語による交流や合同合宿も行います。旅費は各自計画的に準備して下さい。オープン・キャンパスにもゼミの一環として参加します。授業外での練習や準備があります。
ゼミ履修に望ましい科目	英語とメディア、英語オーラル・コミュニケーション論
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	書類(志望動機)と面接によりますが、場合によっては抽選もあり得ます。
ゼミ受入決定者への指示	12月のオーラル・コミュニケーション・フェスティバルに必ず聴衆として参加すること。春休み中の課題もありますので、いつでも連絡が取れるように。
代表的な卒業論文のテーマ	「生きる力を育てる教育」、「複合劇を通して伝える異文化コミュニケーション」、「よりよい人間関係構築への距離と空間とコミュニケーション」
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	塩沢ゼミは、英語を使って様々な活動をしている active なゼミナールです。毎週、大学近くの学童保育で英語の楽しさを伝えています。最大の行事はオーラル・コミュニケーション・フェスティバルで、他の大学に混じり劇などのパフォーマンスを披露します。ゼミの時間外で活動することもあるため、忙しく、大変な時もあるかもしれませんが、ゼミ生が一丸となって困難を乗り越え、無事成功した時の達成感はひとしおです。 とにかく英語で何かやりたい!というやる気のある人におすすめです。 ※聳塔祭で劇等のパフォーマンスを上演しますので、興味のある方は是非ご覧にいらしてください。

担当者名	菅原周一
e-mail アドレス	suga8216@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)
担当科目	新入生ゼミナール (1)、基礎ゼミ (2)、応用演習 (3)、日本経済論 (3)、金融論 (4)、国際観光と会計 (4)、国際金融論 (5)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、月、水、木の昼休み、もしくは、月、木の 3 限。(訪問の際はメールで予約してください。)
ゼミのテーマ	日本経済の成長を将来牽引することが期待できる企業 (ホテル・旅館業、ブライダル業、旅行業、航空業等の観光業を含む) に関する調査・研究
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、将来、日本経済を元気にしてくれる観光業を中心とした企業を探し、応援するための調査・研究を行っています。この調査・研究を通して、社会人になるための基礎力、専門知識を身に付けることができます。また、ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができます。
ゼミの進め方	3 年生の春・秋学期で企業価値評価、投資論に関する基礎的な知識を習得し、さらに外部機関が提供するイベント (本年度は日経ストックリーグ、神奈川産学チャレンジプログラム等) にグループ参加をしながら、実践力を身に付けます。 4 年生の春学期からは卒業研究の検討を進め、ゼミ内でディスカッションをしながら内容の充実を図り、秋学期に卒業論文執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に積極的であること、やる気があることが重要です。全員参加の海外ゼミ合宿も予定しています。
ゼミ履修に望ましい科目	特にはありません。
募集人数の上限	外部機関が提供しているイベント等に参加する関係で 14 名。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「御三家と海外のホテルの運営形態の比較について」、「少子化社会におけるテーマパークのあり方」、「格差問題」、「持続可能な社会を目指した消費者がすべき「責任ある消費」について」等が代表的なテーマです。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	菅原ゼミで学ぶ内容は自分の将来に必要なことばかりです。幅広い分野 (観光業のみならず銀行、保険、自動車など) を勉強していきます。将来の自分の姿が決まってない方でも大歓迎です。勉強だけでなく、BBQ や夏合宿、クリスマスパーティなど、楽しいイベントもたくさんあります！理解学科と観光学科のメンバーは優しい先生の下で隔たりなく楽しく活動しています！興味がある方は遊びに来てください！みなさんをゼミ室でお待ちしています！

担当者名	杉山 富士雄 (すぎやま ふじお)
e-mail アドレス	sugiyama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6212
出講日	火、水、金 (秋学期)
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	経済学、(産業組織論)、(観光企業の競争戦略)、(観光ビジネスの経済学)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日と金曜日の昼休み
ゼミのテーマ	和食と日本・東南アジア農林水産業
ゼミの内容・メッセージ	和食と農業・漁業を通して、江戸以降の日本の産業と経済を考える。国産の良い食材を使い、店内調理するが、極限まで IT や最先端テクノロジーを駆使する飲食チェーンが隆盛。鳥貴族、丸亀製麺、ぱんどう太郎、くら寿司、磯丸水産など。江戸時代に始まる「すし」「てんぷら」「そば」など和食及びそこに食材を提供する国内農業・漁業をどう再生させるか考える。 あなたが暮らす、または以前住んでいた地域の飲食店や農業・漁業、さらに地域創生・活性化に関心があれば、このゼミナールを見学して下さい。 昨年まで専門ゼミナールでは、テーマパーク(遊ぶ)や、地方空港の民営化・再生戦略、都心部のホテル不足対策(寝る)などについても、ゼミナール所属学生と勉強しました。しかし、これは昨年まで観光系ゼミナール教員が少なく、私のゼミだけで3名になる『2次や3次のゼミ希望者』の要望に応えるための暫定措置です。今年以降は、観光系のゼミナールの教員数も増えるため、私のゼミナールでは観光のテーマである『食う・寝る・遊ぶ』のうち、食う(食と農業・漁業)だけをゼミナールのテーマにします。
ゼミの進め方	学生の自主的発表を重視する。発表テーマについての飲食企業や農業・漁業の現場に、出来るだけ調査に行き、収集したデータと現場の状況から改善策を考えるようにしたい。 卒論テーマが決まり次第、グループで、あるいは各自で現地に行き考えてみる。 *2017年度ゼミナール現地調査は、隅田川、お台場、日本橋、両国、浅草、王子などの江戸時代の観光遺産巡りを実施中。2018年はインドネシアのジャワ島農村調査、2019年はウクライナとモルドバ調査を予定しています。
留意事項 (Requirement など)	
ゼミ履修に望ましい科目	経済学、経営学、法学など社会科学系の科目
募集人数の上限	9名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	なし。
代表的な卒論のテーマ	代表的な卒論のテーマは、 「ディズニーとその他のテーマパークの経営比較」(2016年3月卒業生) 「にら山反射炉とペリー」「ペリー来航とみなとみらいの形成」「富岡製糸場」 「川越の町づくり」「湯河原の温泉街」等(2017年卒業生)

担当者名	鈴木 正明
e-mail アドレス	suzukim@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6312
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日4、5限
担当科目	春学期：国際観光と起業、ソーシャルビジネス論、キャリア形成Bなど。 秋学期：ビジネス倫理、観光ビジネスプロジェクト演習、ソーシャルビジネス特論（大学院）など。
研究室を訪問できる時間帯	出講日の昼休み。 その他、訪問可能な時間帯をゼミ室のドアに掲示します。
ゼミのテーマ	企業の経営戦略、ソーシャルビジネス（地域活性化や社会の課題解決を目指すビジネス）
ゼミの内容・メッセージ	経営の勉強を通じて、社会で活躍するために必要な能力やスキル（プレゼンテーション能力や情報収集力、分析力など）を身に付けること。これが鈴木ゼミの目標です。こうした能力やスキルを身に付けられるよう、皆さんにはほんの少し背伸びをしていただきます。皆さんをしっかりサポートしていきます。 企業の経営と聞くと難しそうと感じる人もいるでしょう。しかし、心配は不要です。多くの先輩たちもゼロからのスタートでした。 経営を勉強しておく、将来、役立つことも多くあります。2年後、このゼミを選んでよかったと思えるよう、楽しく、学びの多いゼミにしていきます。
ゼミの進め方	① 経営戦略に関する文献を講読 ② 事例分析（ケーススタディ）やフィールドワーク（経営者・起業家へのヒアリング等） ③ 経営に関するテーマをグループで研究（研究成果は他大学との合同ゼミなど外部で発表） ④ 卒業研究（4年次）
留意事項 (Requirement など)	夏休みにゼミ合宿（起業家へのヒアリングなど）を行う予定です（全員参加）。 なお、神奈川産学チャレンジ（企業から与えられた課題への解決策を提案するプロジェクト）にも参加しています。
ゼミ履修に望ましい科目	特になし。
募集人数の上限	10人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	「洋服のレンタルサービスは普及するのか」「韓国市場においてLINEはカカオトークに対抗すべきか」「生き残る Guest House とは」「制服ディズニーはなぜ流行したのか」「東京ディズニーリゾートの顧客満足度の低下の要因」など
所属ゼミ生（先輩）からの 一言	○ ゼミでの課題は簡単なものではありません。しかし、困った時には鈴木先生が優しく助けてくれます。ぜひ鈴木ゼミにお越しください。お待ちしております。 ○ 「国際学部に入ったけれど経営や起業の勉強がしなくなった…」 「国際学とは少し違った事を勉強したい…」 と思った人にも鈴木ゼミはおすすめのゼミです！ 気になった人は是非お越しください！ ○ 私たち鈴木ゼミでは、グループワークを通して業界分析をしたり、経営戦略について学んでいます。学ぶことは簡単とは言えませんが、将来絶対役に立つ知識なのでとても為になります！ 特にまだやりたいことが明確でない人などなど、大歓迎です*彡(*o^)/ *ぜひ鈴木ゼミへ！

担当者名	高井 典子
e-mail アドレス	takai@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6310
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金4(3年生)、金5(4年生)…時々2限続きで合同ゼミを開催
担当科目 (セメスター)	国際観光論(2セメ)、トラベル・ビジネス論(4セメ)、旅行法規(5セメ)、専門インターンシップ(6セメ)等。大学院では2科目とオムニバス講義を担当。
研究室を訪問できる時間帯	火曜・金曜のお昼休み、および研究室ドアに掲示する日時。
ゼミのテーマ	トラベル・ビジネス 観光行動 インバウンド観光
ゼミの内容・メッセージ	観光行動論および経営学の理論をベースに、トラベル・ビジネスを研究しています。アウトバウンド(日本人の海外旅行)およびインバウンド(訪日外国人旅行)の商品企画・事業企画立案、インバウンドの現場における課題解決などをテーマに文献研究とフィールドワーク、プロジェクトを組み合わせたアクション型の学びを進めています。 ビジネスとしての観光を学びつつ、それらを取り巻くより大きな社会状況を知り、世界を知り、自分を磨き、誰かの役に立つ人になること。 それが高井ゼミの目標です。
ゼミの進め方	毎週のゼミ 3年生は観光行動や国際観光の文献および時事トピックスの輪読を通して知識と理論を学びつつ、下記実践的プロジェクトを通して知識を応用し、商品や事業企画の創り方、課題解決の方法論を身に付けます。4年生は各自の卒業研究テーマに沿った文献研究、基礎調査を実施のうえ、研究計画を立案し、11月末までに初稿完成することを目標に進めます。 プロジェクトとフィールドワーク ①「海外卒業旅行企画コンテスト」「観光大国へ～私の提言」「神奈川産学チャレンジ」「アメリカツアープランニングコンテスト」など学外のコンペへの参戦 ②急拡大するインバウンド旅行者への対応に関する課題解決プロジェクト(2017～2018年度は鎌倉をフィールドとして研究)③鎌倉、高山、京都、河口湖などをフィールドとした研究活動。 道案内ボランティア活動 訪日外国人を主な対象とした「道案内ボランティア～ask me!～活動」を随時実施。頭と体を使ってインバウンド観光の現実を学び、異文化間コミュニケーションのスキルとオープンマインドな態度を養います。
留意事項(Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使った調査を行いますので、一定の英語力が求められます。 ・プロジェクトは通常ゼミ時間外に研究活動を行います。 ・全員参加の合宿を年に2回程度予定(総費用6～10万円程度)。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光論、トラベル・ビジネス論、旅行法規
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	面接および課題提出を予定(ゼミ活動に対する熱意、関心領域、英語コミュニケーション能力などを重視します。)
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受け入れ決定後はゼミに参加していただきます。2年生春休み中にもブレゼミを行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	観光行動分析、インバウンド観光の現場での問題、若者の旅、国際観光を巡る起業の考察、観光を通じた異文化理解など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・高井ゼミのモットーは「全員がリーダー。全員がフォロワー。」 ・毎週のゼミでは和気あいあいながらも緊張感をもって全員参加の議論を行っています。ゼミ見学で実感してください。 ・観光に関する知識を身に付けたことで、観光産業だけではなく、社会の問題点などを広い視野でとらえることができるようになりました。 ・チームで行うプロジェクトが多くあるので発言力と行動力、課題解決力が磨かれます。 ・プロジェクトを通して、社会人としての基礎力と対人関係スキルの向上を意識的に進めます。

担当者名	千葉 克裕
e-mail アドレス	chlba@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6304
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	CALL104, EIC C, EIC301, ESP C (TOEIC), 英語科教育法Ⅲ・Ⅳ, 英語学概論
研究室を訪問できる 時間帯	昼休み、オフィスアワー(火4限・水2限)にどうぞ。 ゼミ見学は事前に申し込んでください。
ゼミのテーマ	「理論に基づいた効果的な英語の学び方と教え方」
ゼミの内容・メッセー ジ	まずは自分の英語をしっかりと磨き、その過程を通して「 英語を身につける仕組み 」について考え、その理論を生かしてさらに自分の英語力を高めたり、教えるたりするための知識と技術を身につけます。 読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法(マインドマップ等)など「 学び方を学ぶ 」ことにも重点を置きます。研究テーマや将来の仕事にかかわらず、自分の興味関心に従って学問的問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養うことが最大の目的です。 高い英語力 と科学的根拠に基づき 論理的に議論する能力 を身につけ、将来 英語を使って仕事をしたい人 の参加をお待ちしています。
ゼミの進め方	<u>3年春学期：基礎的研究力の育成</u> ・思考の整理法、ノートの取り方(マインドマップ) ・本の読み方(読書法)とまとめ方・発表の仕方 ・第2言語習得の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索 ・語彙力と文法力の強化 <u>3年秋学期：研究のためスキルアップ</u> ・文献研究の方法(文献検索・研究カード整理法) ・先行研究レビューとゼミ発表・研究テーマの決定 ・発音矯正 <u>4年：研究論文の作成</u> ・研究デザインの決定とデータ収集・分析と論文作成
留 意 事 項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けられるようにしてください。 ・ゼミ合宿有り ・Mindmap®講座(希望者のみ)は要教材費
ゼミ履修に望ましい 科目	英語音声学、英語学概論、英語表現、心理学など
募集人数の上限	10名
選抜を行う必要性が 生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への 指示	英検やTOEICを受験し、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文の テーマ	「多読学習の効果」「EFL多読学習者の読解の流暢さについての考察」「動機づけの原因帰属理論」「等価的語義理解を避けるための語彙学習」
所属ゼミ生(先輩)か らの一言	千葉ゼミにはこれまでの自分を見直し、変えるきっかけがあります。マインドマップ、速読、英語学習やジャグリングなどを通して新しい自分に出会ってみませんか?千葉ゼミは体育会系のガツガツ系だと思っているあなた、千葉先生は学生の相談にも親身になって答えてくださる優しい先生です。怖いのはやるべきことをやらなかった時だけ!(笑)千葉ゼミで私たちと一緒に充実した残りの2年間を過ごしましょう!やる気と熱意のある学生をお待ちしています!

担当者名	那須 一貴 (なす かずたか)
e-mail アドレス	knasu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6409
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金曜日 4限(3年生)、5限(4年生)
担当科目	国際観光とビジネス、プロジェクトマネジメント、観光ビジネスプロジェクト演習、経営学入門、長期インターンシップ事前研修、キャリア形成基礎
研究室を訪問できる時間帯	研究室の扉に在室時間が書いてあります。どうぞ気軽に訪問してください。
ゼミのテーマ	経営管理、経営戦略、業務改革など、企業経営に関わる問題解決方法について実践を通じて学び、即戦力ビジネス・パーソンを目指します。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、「即戦力ビジネス・パーソン」を目指します。即戦力ビジネス・パーソンとは、ビジネスに関する知識はもとより、自ら課題を見出し解決することができる能力と、リーダーシップ、協調性、高度なプレゼンテーション能力を身に付けた人材です。これらの能力を身につけるため、当ゼミでは 2017 年度は、実践的な活動の場として以下のプロジェクトを実施しています。 ① 課題解決型プロジェクト(神奈川産学チャレンジ)への参加 ② 志賀高原での「観光情報提供カフェ」の企画・運営 ③ 長野県山ノ内町からの委託調査 (街歩きマップ作り、地域製品のブランディングなど) ④ 「リーダーシップ研修」(年 2 回、土曜日開催)
ゼミの進め方	① 3 年次は文献購読に基づく学生による討議と企業分析発表を行います。サブゼミとして上記プロジェクトの準備活動を行い、実践力を高めます。3 年後期には財務会計の基礎を学び、数字でビジネスを考える力を身につけます。 ② 4 年次はビジネスケースを用いたケーススタディを中心に行います。様々な企業の事例をゼミ生とともに議論しながら分析していきます。この活動を通じて、学んだ知識を実践でどう使うかを身につけます。同時に卒業論文執筆をおこないます。
留意事項 (Requirement など)	プロジェクト活動が多いため、サブゼミ(課外活動)への参加が求められます。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
募集人数の上限	14 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	全員と面談を実施します。
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを行います(期日は別途連絡します)
代表的な卒業論文のテーマ	経営戦略、マーケティング、ブランディングに関する研究など。
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	那須ゼミナールでは、企業で経験することを学生の間で体験することができます。夏の志賀高原プロジェクトではディスカッションを繰り返し、課題発見・解決力と主体性を鍛えながら挑戦と成長を繰り返しています。ゼミ生は友人であり同僚です。那須先生は先生であり上司でもあります。自分の成長を感じることができるゼミナールです。会議以外はワイワイと楽しくオンとオフを使い分けて同期 17 人で仲良く活動しています。(3 年生) 私たちがこれまでに得たものは、経営の知識だけではありません。社会人基礎力や尊敬し合える仲間も得ることができました。そう言い切れるのは、「3 年次にプロジェクトを通じて実践的に経営を学んだこと」「4 年次には学んだことを活かして企業の過去の戦略を経営者視点で分析したこと」等の積み重ねと、課題を全員で乗り越えたという経験が自信となっているからだと考えています。残りの大学生活を私たちと新しい仲間と共に、かけがえのない時間としませんか?(4 年生)

担当者名	林 薫 (はやし かおる)
e-mail アドレス	hayashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6306
出講日	(月)、火、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4限 5限
担当科目 (セメスター)	国際理解論(2) 地域研究D アフリカ(3) NPO とボランティアの理論(3) 開発と国際協力(4) 資源と国際協力(4) 国際協力実地演習
研究室を訪問できる時間帯	月曜日(終日:要連絡)、火曜日(1限、昼休み、4限、5限)、水曜日(昼休み)、木曜日(1限、3限) ゼミ見学は木曜日4限、5限。ゼミ選択期間中はこれ以外にも研究室訪問が可能です。6306 研究室前に日程表を掲示します。
ゼミのテーマ	「持続可能な世界の実現」がテーマです。
ゼミの内容・メッセージ	2015年に国連は2030年までの「持続可能な開発目標」を採択しました。これは開発途上国と先進国がともに目指さなければならない目標ですが、その成否は私たちの日常生活のありかたに直接結びついています。ゼミ生の学びたいテーマの設定は自由です。貧困、格差、福祉、子ども、経済、貿易、国際関係、移民と難民、気候変動、環境汚染、防災、災害復興、地域振興、その他いずれの分野も最終的な課題は「持続可能性 sustainability」に行きつきます。理想論だけではない具体的な解決策の提示を目指します。みなさんの学びたい分野やテーマを通じて考えてみませんか。また、プロジェクトの計画と評価、統計、参加型開発など、社会に出てから必要な汎用スキルを身につけ、実践的なチェンジメーカーになることを目指します。
ゼミの進め方	3年生の春セメスターは持続可能性の基本的な考え方を途上国の現実を通じて学びます。農村の開発の具体例を使って、ロールプレイング方式で生活の向上について実習を行います。秋セメスターでは、ゼミ生の関心の領域について、研究発表とディスカッションを組み合わせて、知識を深めます。4年生の春セメスターでは、討論を続けながら、各ゼミ生のテーマを決定します。秋セメスターでは卒業論文を書き上げます。毎年夏に、任意参加の「インド・スタディー・ツアー」を実施し、途上国の現実を学びます。学外のイベント参加なども積極的に行っています。聳塔祭へも参加します。また被災地の支援活動も行っています。
ゼミ履修に望ましい科目	2年秋セメの「開発と国際協力」「資源と国際協力」をぜひ履修してください。
募集人数の上限	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接で選抜します。議論やゼミ活動に積極的に発言できるかどうかなどです。
ゼミ受入決定者への指示	決定したら、3、4年のゼミになるべく顔を出すようにしてください。ゼミの機関は短いので、2年生のうちから一緒に学びたいと思います。
代表的な卒業論文のテーマ	「暴走する資本主義に対抗する権利ベースアプローチ」 「インドにおける最下層カーストと社会統合」 「シアバター産業とガーナの貧困」「近代化と女性をめぐるタブーの変化」 「スポーツで国際協力を行う意義」「開発教育からフェアトレードへの展開」 「ノンフォーマル教育の意義と有効性」「途上国と高速鉄道 ～インド高速鉄道支援の妥当性～」「地域おこし協力隊で地域は活性化できるのか」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	「国際協力を仕事にしたい!!」そう考えているあなたの夢はどこまでリアリティーがありますか? 現状と向き合った上での支援、開発を学びたいのであれば、是非林ゼミへ。現地の現状を踏まえたディスカッションやインドへのスタツアは知識だけでなく、実体験として、自分の目で見て、考えることができます。そして私は林先生、ゼミの学生のおかげで、私の夢への第一歩である2017年9月から約1年間、ケニアでの水ビジネスを行う社会的企業へのインターン留学を決心し、形にすることができました!!一緒に夢への第一歩を踏み出しましょう(谷中勇一 4年)

担当者名	黛 陽子
e-mail アドレス	mayuzumi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6417
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 2 限 (要相談)
担当科目	新入生ゼミ、基礎ゼミ、応用演習、生態系と人間、観光と国際協力、国際観光とデザイン、インタープリテーション論(理論・応用)、大学院 1 科目
研究室を訪問できる時間帯	月、水、木の昼休みと授業の無い時間帯 *ゼミ説明会を実施します。説明会日時は 6417 のドアに掲示予定
ゼミのテーマ	ヘリテージ・インタープリテーション「知る・調べる→伝える→つなぐ→解決策」
ゼミの内容・メッセージ	黛ゼミの学びは、対象とするヘリテージ(自然・文化遺産・生活慣習)に対し地に足が着いた立場で学生自らが深く理解し、人のガイドやメディアで伝え、さらにそのヘリテージが持続可能な形でまもっていかれるような活動を行なえるようになることです。インタープリテーションは、観光地のヘリテージ(自然・文化遺産・生活慣習)に付加価値を与える役割を担います。また、ツーリズムにおけるマーケティングの有効な手段として利用する価値があるとも言われます。インタープリターは自分の得意とする地に足の着いた現場(フィールド)を持って学びを深める事がもっとも大切であり、これをゼミの学びの精神としています。活動フィールドは、地に足の着いた現場として軽井沢とインドネシアバリ島としています。バリ島での活動が主であり、現地の自然環境、文化、生活慣習、貧困などの多くの課題を直接見て知り、理解者や観光客を増やす流れを作るために、地場産業を作り出す活動と Community Based Tourism (グリーンツアー)の企画を育てます。
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論]=授業で受講する [インタープリテーション実践]=ゼミ活動 * 3 年時のおおまかな流れ： 4 月導入 5 月野外活動 6 月 7 月バリ島合宿準備 8 月バリ島合宿 10 泊 9 月合宿報告会 10 月学祭出店 11 月軽井沢合宿 12 月 1 月野外活動 *4 年時：卒論文取組み：全員が社会調査を用いた卒業論文を書きます。 *バリ島合宿での貴重な体験でゼミ生全体が仲良くなります。4 年時に調査で自主的に 2 度目のバリ島に行くゼミ生も毎年 4~5 名います。
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、また、しようと努力できる学生さんをお待ちしています。また、本ゼミでは全員がバリ島ゼミ合宿に参加することを希望します(15 万円程度)。他に軽井沢合宿(2 万円)。
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、インタープリテーション論(理論・応用)はゼミ生全員 3 年時に必ず受講。観光と国際協力の受講も好ましい。
募集人数の上限	14 名 (応募状況による)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接を実施する。
ゼミ受入決定者への指示	1 月に顔合わせ会の実施。3 年生になる前の春休みに課題に取り組んでいただきます。
代表的な卒業論文のテーマ	Community Based Tourism の企画、地場産業の商品開発、観光業と農業の就労に関する意識調査、国内におけるインタープリテーション活動調査
所属ゼミ生(先輩)からの一言	学生 M: プレゼンの機会が多く、様々な活動をするのでたくさんの経験ができます。活動が多い分忙しいですが、とても充実していて楽しくゼミ活動を行っています。夏はバリ島での合宿がありゼミ生の仲が深まります! 学生 R: 1 年の中で合宿が 2 回あるなど課外活動が多く、様々なことに取り組み多くの経験ができます。勉強することも多く忙しいゼミですが、ゼミ生同士楽しく充実したゼミ活動を行っています。

担当者名	宮原辰夫
e-mail アドレス	miyahara@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6415
出講日	水、金
ゼミの開講時間	金曜日 3 限 (3 年生)、4 限 (4 年生)
担当科目	政治学入門 イスラーム入門 地域研究 (南アジア)
研究室を訪問できる時間帯	出校日の昼休み
ゼミのテーマ	テーマはゼミ生の関心・興味、そして社会的な問題と関わるテーマとなります。今回のゼミのテーマは、「超高齢社会とネット社会」です。
ゼミの内容・メッセージ	宮原ゼミでは、ゼミ生が自ら考え、自ら行動することを大切にしています。何か自分たちでやりたいテーマがないと辛いと思います。むしろ、こういうことをやりたいという学生は大いに歓迎です。サムエル・スマイルズやベンジャミン・フランクリンは「天は自ら助くる者を助く (Heaven helps those who help themselves.)」という格言を残しています。つまり、「他人の助力をあてにせず、自ら努力して助かろうとする人を、天は助けるものだ」という意味です。ゼミでの体験が社会への第一歩となることを願っています。
ゼミの進め方	3 年の春学期はテーマを決定し、春学期後半から秋学期にかけて、全員でそのテーマについて調査を行います。4 年生はそのテーマの調査データを分析し、さらに理論的な裏付けを行い、卒業論文として完成させる。
留意事項 (Requirement など)	各自バラバラなテーマではなく、1 つのテーマを全員参加で国内調査を行います。海外での調査・研修は行いません。
ゼミ履修に望ましい科目	担当する講義科目を履修していることが望ましいが、履修していなくても構いません。
募集人数の上限	9 名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接、書類審査等により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別に面接を行います。
代表的な卒業論文のテーマ	宮原ゼミでは、これまで興味を持ったテーマを各自で調査・研究し、卒論としてまとめてきました。ここ 2 年間は全員で一つのテーマを調査・研究し、全員でまとめる方式に変えています。ただ、ゼミ生の人数にもよるので、その時にゼミ生と相談して決めることとなります。因みに、昨年は「日本版 DMO の特色と大隅半島 DMO の取組み」でした。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	宮原ゼミは自分たちで考え、自分たちで行動することが求められます。もちろん、先生からテーマや調査内容についてアドバイスをして頂けます。また調査訪問先の紹介や連絡等もして頂けます。自分たちで主体的に行動を起こしているという充実感があり、やりがいを感じています。伊豆で合宿もあり、みんなでバーベキューをしたり温泉に入ったりしてワイワイ楽しくやっています。是非、ゼミ室を訪問してください。

担当者名	本浜 秀彦
e-mail アドレス	motohama@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6311
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木 4 限、5 時限
担当科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」、「日本ポップカルチャー論」、「日本の伝統文化」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	詳細を研究室のドアに掲示 *訪問は、お昼休み時間などを使い、個別面談のかたちで受けます〔基本的には予約制〕。木 4 限か 5 限のゼミにも必ず顔を出してください。
ゼミのテーマ	国際日本研究
ゼミの内容・メッセージ	多様な「日本」のすがたかたちを、各地域の歴史、伝統文化、現代ポップカルチャー、そして海外との比較などから捉え直し、英語で発信する、というのがゼミの目標です。目指しているのは、究極の「雑学 (= 教養) ゼミ」! (“プロジェクト” に比重を置くゼミではありません)。
ゼミの進め方	「日本」の捉え方は人それぞれですし、また「日本」への学問的なアプローチ方法もさまざまです。そのため卒論のテーマは、基本的には (文学研究者である私が指導できる範囲で) 何を選んでも構いません。 とは言え、その間口の広さが、ゼミ選択のミスマッチにつながりかねないので、お互いの幸せのために、以下の点に注意してください。 1) 担当教員は、文学およびビジュアル文化 (映画、絵画、浮世絵、マンガ、アニメなど) を幅広くカバーしていますが、いわゆる“オタク”的な興味を持たず、むしろ社会問題に強い関心がある (新聞記者の経験あり)、文化や芸術を社会との関わりの中で考えているので、誤解なきよう。 2) 最近の研究の関心は、物語とビジュアル表現の関係性にあり、現代アートや絵本に興味がある学生は大歓迎。新ゼミ生は、紙芝居という古くて、新しい? メディアを通して、表現力、コミュニケーション力を高めてもらいます。 3) また、「海」や「島」の文化について研究してきたので、ハワイや沖縄、湘南の文化などを、メディアとの関わりやイメージの観点から分析したい学生の関心に沿うかもしれません。 4) 一方、本や新聞を読まない学生、座学の勉強があまり好きではない学生には、教養ゼミ的な色彩の強い本ゼミは恐らく合わないでしょう。 5) 卒論指導は厳しいので心してください (文章を書くことにこだわりが強い)。というか、卒論力 = 就活力と考えているのですよ、わたしは。 6) 学生生活も折り返しの時期に近づき、就職のことも気になってくるでしょうが、会社 (をはじめとする組織) は入ってからがむしろ大変 (特に人間関係!)。社会に出ても折れないしなやかさと強さ、したたかさを、明るさを大事にしなが、身につけてほしい—そのためには、やはり勉強しかありません。 7) 「失敗したこと・負けたこと・できなかったこと」を直視することから、人は成長します。Nobody's perfect. ゼミではこのスローガンを掲げます。
留意事項 (Requirement など)	ゼミ合宿 (3 年生対象) は、万難を排して参加すること。これはゼミ受入れの重要な条件です。*費用は、行き先によって、おおよそ 5 万~18 万円。
ゼミ履修に望ましい科目	「現代日本の諸問題」、「日本の地理と歴史」など
募集人数の上限	9 人 (卒論指導を考えての人数設定)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接およびコラージュ作品の作成・提出 *課題 (例) 「好きな小説や映画の作品世界を、コラージュで表現しなさい。」
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーションを実施。その際にゼミ合宿の行き先についても話し合う。
代表的な卒業論文のテーマ	コンテンツツーリズムとしての文学散歩、アニメと聖地巡礼、カワイイは正義! 茅ヶ崎の海と生活文化、ザ・神奈川論、ニッポン高校野球の魅力 など

担当者名	山口 一美 (やまぐち かずみ)
e-mail アドレス	yamaguch@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6316
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	新入生ゼミナール、観光サービス、観光心理学、観光ビジネス論、国際観光とホスピタリティ、キャリア形成A, ツーリズム心理学特論 (大学院)、サービス・マネジメント特論 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	基本的に火曜日、金曜日のお昼休みですが、他の訪問していただける時間は研究室のドアに貼っておきます。それを見ていらして下さい。
ゼミのテーマ	観光事業とホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	観光事業 (エアライン、ホテル、旅行、ブライダルなど) におけるホスピタリティ・マネジメントについて、1) 高収益をあげているホスピタリティ・マネジメントについて研究する。2) 海外と日本のホスピタリティの違いについて比較する。3) 観光事業においてどのような人材が顧客満足を促進させるのかなど人に関わる要因を取り上げ、心理学的な視点から考察する方法を学ぶ。
ゼミの進め方	①上記の1)2)3)に関して、課題図書、資料を使って学び、討論、発表を行う。その上で学生自身が興味のあるテーマを選択し、研究、調査、発表を実施する。これらを通してホスピタリティ・マネジメントおよび卒業論文のテーマに関する知識を修得、プレゼンテーション能力、論理的思考の育成を行う。②フィールドワークを行い、高収益をあげているホスピタリティ・マネジメントのあり方についてインタビュー調査、質問紙調査を行い、企業へ提案を行う。昨年実施したフィールドワークは、長野県小布施町、沖縄(リッツ・カールトン・ホテル沖縄、沖縄ワタベウエディング、美ら海水族館など)、日本航空客室乗務員室、整備場、ハワイ・オアフ島(フェスティバルのボランティア、ハワイアンエアライン訪問、カピオラニ・コミュニティ・カレッジの学生と討論など)を実施した。訪問先については、学生と討議して決定する。③ホスピタリティを提供する方法を実体験する (茅ヶ崎マカナフラフェスティバルなど)。④3・4年生合同合宿において、テーマ別にグループ討論、発表を行う。
留意事項(Requirement)	フィールドワークは全員参加が望ましい。
ゼミ履修に望ましい科目	できれば、観光サービス、国際観光とホスピタリティを学習して欲しいと思います。履修していない場合はこれから履修してください。
募集人数の上限	15名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	全員と個別面談をします。
ゼミ受入決定者への指示	事前にオリエンテーションを行います。(期日は別途連絡します)
代表的な卒業論文のテーマ	研究室で閲覧して下さい。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	山口ゼミナールは一人ひとりが夢や目標に向けて努力できる環境にあります。仲間同士で切磋琢磨しあい、何かあれば助けあっています。山口先生はゼミ生が夢を叶える為のアドバイスをしてくださいます。また日常生活の面でも相談に乗ってくださりとても学生思いの温かい先生です。2年間で成長したい、夢を叶えたいと思っている方はぜひ山口ゼミナールへ。お待ちしております (3年生ゼミ長・副ゼミ長)。ゼミナール活動では、多くのフィールドワークを通し、ホスピタリティやサービスがどのようになされているのかを調査し、結果を討論、発表をします。その経験は、お客様や他者への行動・心遣いへと還元されています。山口ゼミナールには、一人ひとりが夢や目標に向けて努力できる環境があります。学んだホスピタリティを仲間にも周りの人にも忘れずに生活をする事で、人として一回りも二回りも成長できます。2年間で成長したい、夢を叶えたいと考えている方はぜひ山口ゼミナールへいらして下さい (4年生ゼミ長・副ゼミ長)。

担当者名	山崎 裕子 (やまざき ひろこ)
e-mail アドレス	yamazaki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6410
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜日 4 時限目、5 時限目
担当科目	[春学期] 哲学、倫理学、キリスト教入門、 西洋思想と国際社会、新入生ゼミナール [秋学期] 哲学、倫理学、キリスト教文化と社会、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜日 (お昼休み、4 時限目) 木曜日 (お昼休み、4 時限目、5 時限目)
ゼミのテーマ	世界の文化と宗教を哲学する
ゼミの内容・メッセージ	世界の文化とその発想法を理解し考える力をつけることを目指し、宗教 (主にキリスト教) と哲学について考えていきます。 これまでの 3 年次生共通テキストは、『ソフィーの世界』『キリスト教の教え』『4 つの愛』『選択の自由』『嘘の人間学』『真理論』などです。読書を楽しむだけでなく、読書を通じて、著者と、ゼミ生と、そして自分と対話してほしいです。 自分の周囲の事柄を当たり前と思わずに、「なぜ」と問う姿勢が大切です。
ゼミの進め方	1. 3 年次の春学期から秋学期の途中まで： 共通テキストを、ゼミ生全員が交代で担当して輪読。この段階で、哲学思想書の読み方を習得します。 この間の成果は、3 年の秋に、簡易製本の小冊子にまとめます。 2. 3 年次秋学期の後半以降： ゼミ生各自のテーマに沿って、発表を進めます。テーマは、哲学やキリスト教の内容でなくても、「なぜ」という問いを含むテーマであれば、O.K. です。 3. ゼミ論文は、完成すると卒業論文となります。
留意事項 (Requirement など)	山崎ゼミでは、ゼミ生同士のコミュニケーションを大切にしています。社会的マナーを守りながら、アットホームなゼミしましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	特になし。哲学は世界全体に関係するものなので、特定の内容に限定されません。
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談。適性と意欲を確認します。
ゼミ受入決定者への指示	入ゼミ決定後、全員で一度集まりましょう。日程は、こちらから連絡します。
代表的な卒論のテーマ	「時間の意味」 「人は他者を愛せるか」 「幸福感を得るためにどのようなことができるか」 「ナチドイツ支配下におけるユダヤ人とキリスト教会」 「憲法第 9 条改正問題—平和を高く掲げるために—」 「宣教師と東洋布教—布教政策に見る異文化理解—」 「鬼の正体—鬼物語とその本質—」など。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	山崎ゼミでは、思想だけにとどまらない哲学を学ぶことができます。少しでも考えることが好きな方、宗教に興味がある方、ぜひ 6410 へ足を運んでみてください！ (4 年ゼミ生より)

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6209
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 地域調査演習、景観と風景のまちづくり、応用演習 【秋学期】 市民の環境貢献、環境コミュニケーション論、統計調査の基礎、国際化・情報化時代の社会学、国際学研究 B
研究室を訪問できる時間帯	火曜 (昼休み)、金曜 (昼休み) など (詳細は研究室に掲示します)
ゼミのテーマ	「まちづくり」における市民参加と地域社会 ～「望ましい社会」の形成における市民の役割と持続可能性の考察～
ゼミの内容・メッセージ	まちの望ましさの実現 (社会問題としての環境問題をどう解決するかなど) を提案しつつ、これからの地域社会を構想することがゼミの共通テーマです。まちづくりを、1) 市民の地域活動と地域形成 (参加と決定を含む)、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会的貢献などに関連づけ、2) 日本や国際社会の諸問題や、より身近な生活や文化の比較考察といった領域を題材に、3) さまざまなまち (地域) の考察をします。社会学を検討の土台とし、ゼミ参加者と議論をしながら考えます。可能なかぎり現地調査も交え、市民活動への参加を通じて体験的に問題解決の糸口をみつけるゼミです。まずは、なぜあるできごとが問題と考えられるのかという話題からスタートします。そして、これからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 3 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつかって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席としないというルールにしています。また参加者は、(研究) プロジェクトチームに入ってもらいます。このチームは 3・4 年合同で編成し、卒業研究にむけた具体的な準備をするものです。月の最終週をこの時間とし、年に数回のペースで報告会を開きます。合宿の他、地域社会調査や実習、海外研修 (希望者のみ)、他ゼミ (他大学) との交流を行うなど、現地体験の機会も作ります。
留意事項 (Requirement など)	みんなで作るゼミを目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流は、原則、全員参加です。
ゼミ履修に望ましい科目	とくに定めません。
募集人数の上限	10 名 (学外での研究活動を実施する予定があるためです。)
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を連絡します。 研究室のドアにも掲示するので、よく確認して下さい。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時は個別に連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。
所属ゼミ生 (先輩) からの 一言	やる時はやる、オンオフがしっかりしているゼミ。基本、生徒主体で進めていく、自分を高めるゼミ。市民討議会やローカルファースト研究会など、普通の大学生ではできない経験が出来るゼミ。しっかりした勉強が多いゼミ。雰囲気楽しいゼミ。4 年生と 3 年生の溝がないゼミ。

担当者名	横川 潤(よこかわ じゅん)
e-mail アドレス	jun-y@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6413
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4,5 限 3211 教室
担当科目	【春学期】国際観光とマーケティング、観光マーケティング論、フードサービス特別講座 【秋学期】飲食店企画論、国際食文化論
研究室を訪問できる時間帯	昼休み(月・水・木) ゼミ見学希望者は木曜日 4,5 限 3211 教室(予約不要)
ゼミのテーマ	ホスピタリティとフードのマーケティング(経営者に対する企画プレゼンテーション)
ゼミの内容・メッセージ	企業の経営者(または自治体の首長)に対して、本社(または庁舎)に赴いて研究発表の成果をプレゼンテーションします。今まで(株)ローソン(株)吉野家(株)すかいらーく(株)ヴィアホールディングス(株)めいらく(株)長岡商事等の企業、茅ヶ崎市、長野県売木村等の自治体に対して行い、プレゼンのいくつかは現実に商品化され、メディアでも大きく取り上げられました。その成果は就活でも活かされ、ANAやJAL等エアライン、星野リゾート等ホテル、HIS、JTB、日通旅行、阪急交通社、JR 東日本等トラベル、スターバックス、セブンイレブン(本社総合職)、グリーンハウス(本社総合職)、ブライダル、コンサル会社など、人気企業の内定・就職に結実し、実社会でも活躍しています。
ゼミの進め方	【研究の流れ】オリエンテーション→プロジェクトの決定→学会参加→企業調査 →ニーズ分析→競争分析→ プレゼン準備→プレゼン本番→反省会とフィードバック→卒論作成・完成→学会発表(予定) 【研修旅行(3年秋学期)】京都、大阪。レンタル着物で高級料亭に伺い、日本料理の精髓を体験。大阪ではユニバーサルスタジオを訪ねます。 【卒業旅行】ニューヨーク。アメリカの人気テレビ番組「ゴシップ・ガールズ」でも登場する有名レストランやDean&DeLuca 本店などを視察し、2年間の総まとめとします。
留意事項 (Requirement など)	強い責任感を持って、真面目にグループワークに打ち込めること。この2年間で一生に渡る友情を育みたいと、真剣に思っていること。
ゼミ履修に望ましい科目	なるべく横川担当の科目を履修して下さい。
募集人数の上限	14名
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接。主として、熱意、明るさ、素直さを拝見します。(未定を含め)どのような進路希望を持っていても結構です。
ゼミ受入決定者への指示	受け入れが決定した時点で全員の顔合わせを行い、その場で指示します。
代表的な卒業論文のテーマ	マーケティング分析と戦略的インプリケーション
所属ゼミ生(先輩)からの 一言	横川ゼミは活気に溢れていて、分け隔てなく誰とも仲よくなれ、根はまじめな子が集まったゼミで、やるときはきちんとやるゼミです。企業と連携して新たな商品、サービスを提案して世の中に発信することができます。それに向けて毎週グループごとに研究プレゼンを行っています。そのほかにも学会や食事会、ゼミ旅行、企業訪問などもあります。就職先は必ずしも食に関係なく、個人の希望する先に内定(トラベル、ホテル、ブライダル、エアラインなど)をもらっています。卒業旅行はニューヨーク(*^▽^*) 仲よく、楽しく、何かをやり遂げたいと思っているそこの君!ぴったりなゼミがここにある¥(^o^)/

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6305
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	国際協力論、紛争と国際協力、地域研究 (東南アジア)、文化人類学、農村社会開発論、フィールド調査法演習 (大学院)、開発人類学 (大学院)
研究室を訪問できる時間帯	月・水・木 (昼休み) @6305 ゼミ訪問は木曜 (4~5 限) @6305
ゼミのテーマ	「文化人類学から現代社会の課題を考える」 キーワード：格差、社会的排除、貧困、ファシリテーション
ゼミの内容・メッセージ	開発協力やまちおこしを含め、他者とかがかわる際に、その地域や組織、人々について学ばなければ始まりません。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学をベースに、「個人」「地域」「歴史」の視点を大事にします。開発協力だけではなく、政治や経済、自然現象などさまざまな出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。また、個人はさまざまな制約のなか、何を大切にし、どのように生き抜いているのでしょうか。 本ゼミでは、一つの答えや解決策を見つけることを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することに重点を置きます。なお、テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知を深めていく学びの空間をつくっていきたくと考えます。
ゼミの進め方	3 年次：春学期は、基本的には、テキストの講読・担当者による要約・問題提起・ゼミ履修者による討論を行いつつ、それに関連した活動 (学内外) を企画・実践します。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究発表および議論を中心とします。1 年をつうじ、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。今年度は、ボランティア論に関する文献、国際協力のメタファシリテーションに関する文献を読みながら、「古着 de ワクチン、古本 de 社会貢献」というイベントを実施した。 4 年次：卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画をたてます。各自のテーマと内容について討論形式で進めていきます。10 月に卒論合宿を行い、互いを励ましつつそれぞれ一つの課題について取り組みます。
留意事項 (Requirement など)	これまで3年次夏休みに、任意参加の海外フィールドワーク研修をフィリピンで実施してきました。実施の有無や内容については年度ごとに異なります。本年度は9月3日~12日に、フィリピンにおける都市貧困とミンダナオ紛争への支援の実態についてスラム地域、子どもの保護施設、社会的企業、JICA、外務省職員、イスラーム教徒に聞き取りをします。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」、「国際協力論」、「NPO・ボランティアの理論」、その他国際学部の関連科目を履修していることが望ましいです。
募集人数の上限	10 人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接 (上限を超えた場合、面接日を設定して連絡します。) 希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周囲と協調して活動を進められるかがポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、年度が変わる前に、顔合わせと今後のゼミの進行について打ち合わせを行います。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	スリランカにおける内発的発展、捕鯨反対運動と地域文化の展開、フードバンクと難民支援の課題、BOP ビジネスの可能性、日本における LGBT の受容
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	少人数のため、アットホームなゼミで、発言も多く、みんなで仲良くやっています。また自分のやりたいこと、好きなことを学べるゼミです! (4 年生)

担当者名	X (宿泊事業論)
e-mail アドレス	
研究室	
出講日	
ゼミの開講時間	
担当科目	ホテル・サービス論、ホテル事業論、など。
研究室を訪問できる時間帯	
ゼミのテーマ	宿泊事業論
ゼミの内容・メッセージ	2018 年度着任予定のため、ゼミ内容等の各種相談については、国際観光学科の鈴木正明先生までお願いします。
ゼミの進め方	
ゼミ履修に望ましい科目	
募集人数の上限	18名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	学科・学部責任者との相談の上決定します。
ゼミ受入決定者への指示	教育支援課からの掲示による。
代表的な卒業論文のテーマ	
所属ゼミ生（先輩）からの一言	